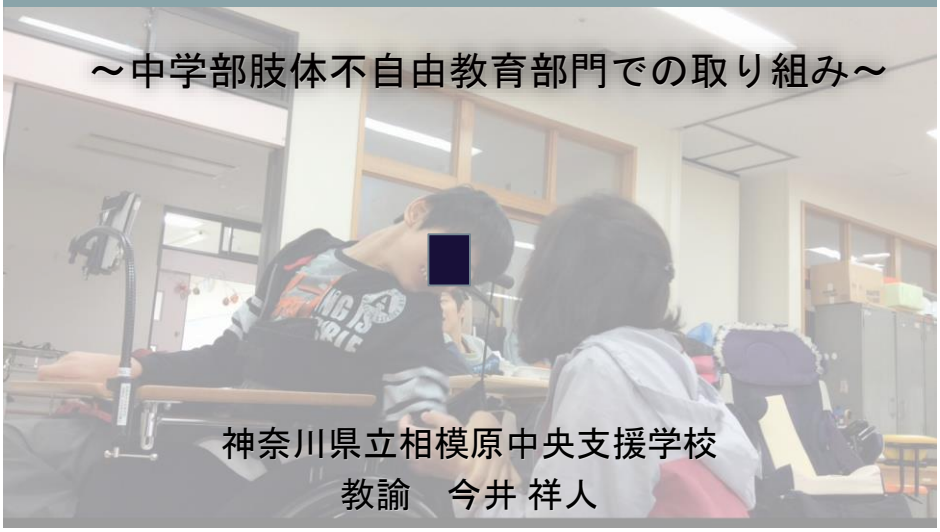
できた！伝わった！来てくれた！
iPadで思いが伝わる！

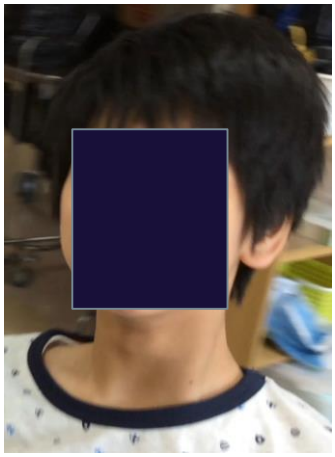


～中学部肢体不自由教育部門での取り組み～

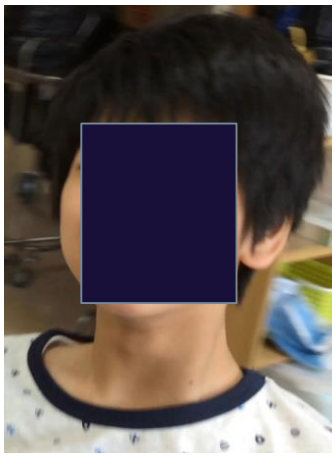
神奈川県立相模原中央支援学校
教諭　今井 祥人

対象生徒Aさん

中2男子　肢体不自由（知的障がいを伴う自閉症）

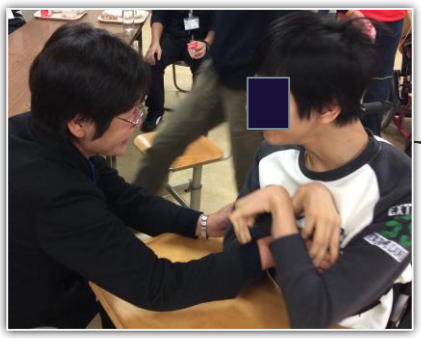


言語理解



内言語が多い。
名詞は理解している。
動作後はまだ不十分。
給食のメニューは文字のみで理解できる。

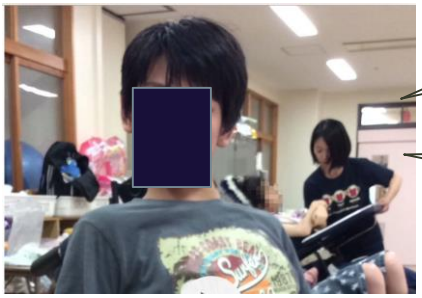
要求



○○先生と遊びたい！

iPadで遊びたい！

拒否



この先生じゃない！

これは食べたくない！

注意喚起行動

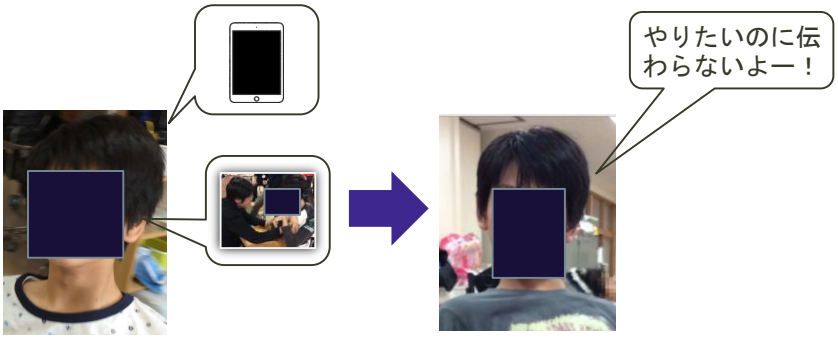
先生きてよー！

遊んでよー！

落ち着いて冷静に伝える手段や見通しを持っていない。

不安定になってしまうことも

どうして不安定になってしまうのか？



ストレス

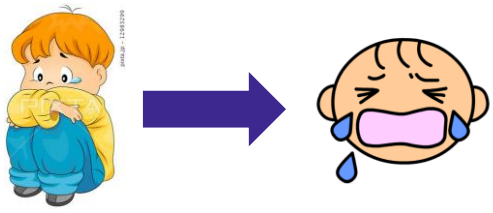
人を呼ぶこと・伝えたいことを分ける！

Aさんの困り

自分の思いが周りの人に正しく伝えることが難しい。

どんな場面で不安定になってしまうのか？

一人で過ごしている場面



活動目的

①自分の思いを冷静に、落ち着いて周りの人に伝える手段を身に付ける。

②伝えれば大丈夫、困ったら呼べば大丈夫、ということが理解できる。

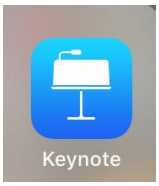
③コミュニケーションに対する見通しをもつことで、不安定になってしまう場面を減らすことができる。

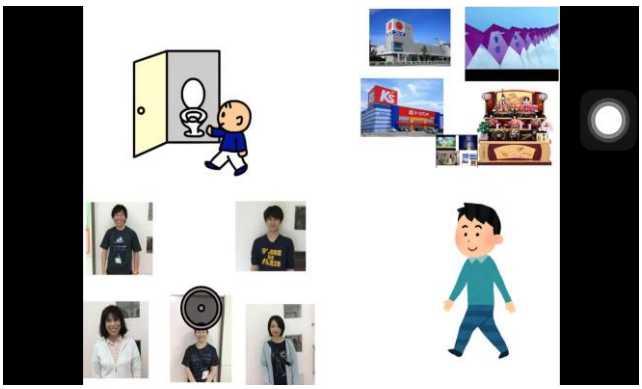
実際の取り組み①

4月～6月

①やりたいことを正しく伝えることができるツールの作成。

②落ち着いて過ごせる環境作り。

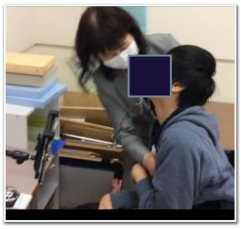




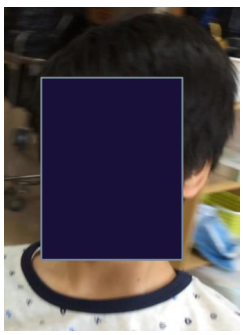
・遊びたい先生を呼べる。
・好きなCMソングが聴ける。
・散歩やトイレに行きたいことを伝えられる。

・1人で楽しめる物や操作できる物、ベルの設置。
・iPadをアームで固定した。

前期を振り返って



- iPadを使用して、やりたいことを正確に伝えることができるようになった。
- 以前よりも見通しをもって、落ち着いて一人で、CMを聴いたり、お茶を飲んだり、玩具で遊ぶようになった。
- 困ったことがあると、慌てることなく落ち着いてベルやiPadで、教員を呼ぶことができるようになった。



正確に伝えられるようになったぞ！
見通しを持って過ごせるようになったぞ！

移動中

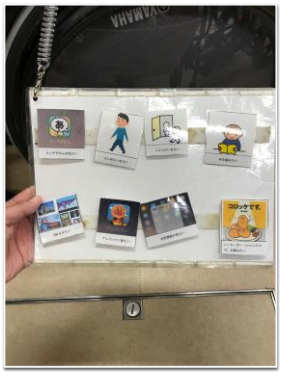
しかし・・

集中力の低下
自走ができない!

実際の取り組み②

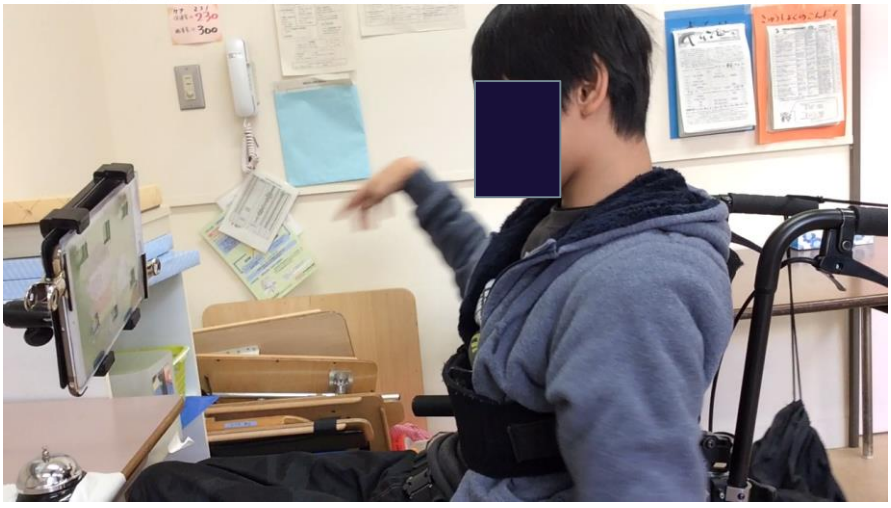
9月～12月

①教室外でも自分の思いを正確に伝えられるツールを作成。



大好きな給食から練習！

様々な場所で伝える練習に取り組んだ。



学校での変化

- 様々な場所で自分のやりたいことをカードで伝えられるようになった。
- 担任以外の教員にもカードでやりたいことを伝えることができた。
- 教室でもカードを使うようになった。

保護者との取り組み

iPadを使い、学校と家庭の様子を共有する活動。

やりたいことが伝わって嬉しそうですね。

1人で落ち着いて過ごしていてすごい！！

７月末の日誌に・・

家でもCM教材を使ってみたいです。

夏休みに家庭訪問を行った。

9月末の日誌に・・

iPad miniだと画面が小さいので本人用のを買いました。

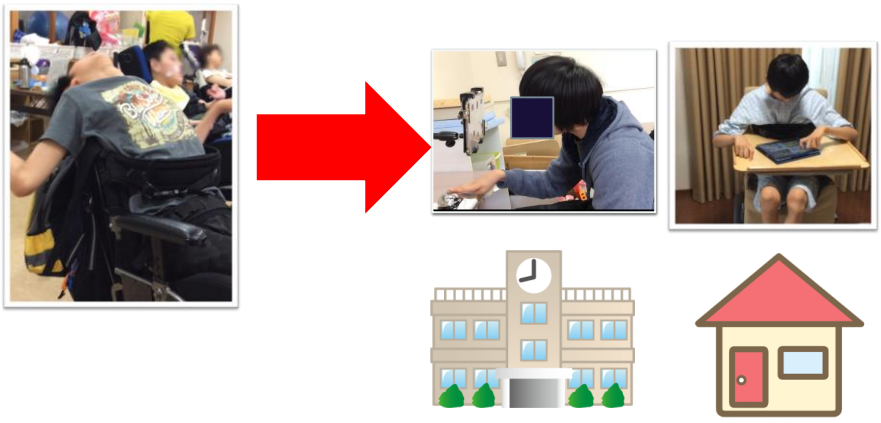
アンパンマンのアプリとお尻探偵が好きですよ。

アプリカードを使っている様子

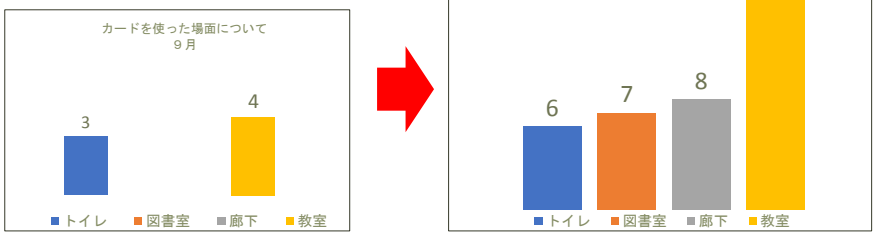
家での変化

- 家庭用のiPadの購入によって、本人の好きなアプリが増え、好きなことが増えた。
- アプリカードを作成したことで、家でもやりたいことを正しく伝えられるようになった。

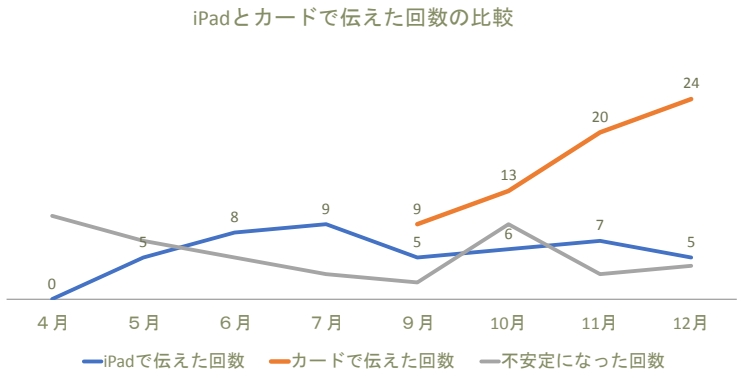
ここまでの取り組みを振り返って



気づきとエビデンス



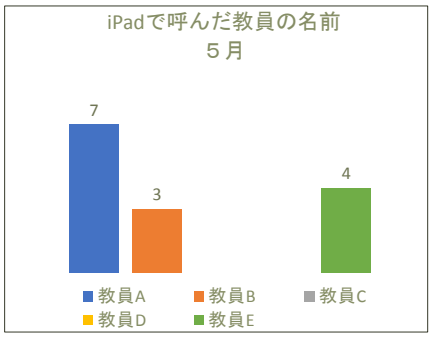
・カードを渡す場面が増えた。
・教室でカードを渡すようになった。

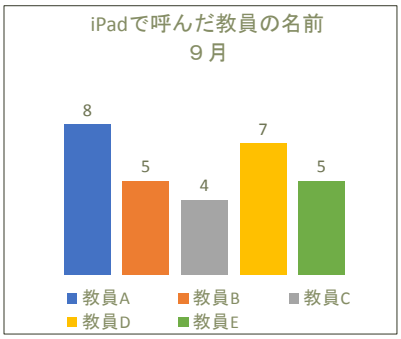


写真カードが１番のコミュニケーションツールになってきた。

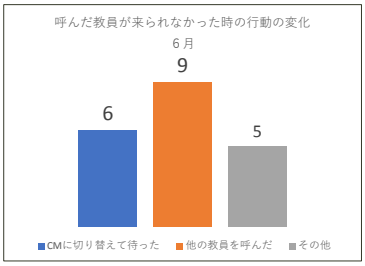
教室

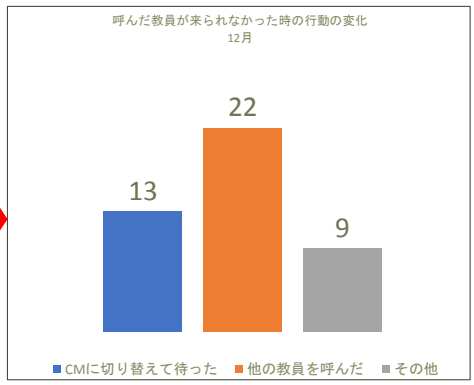
それ以外





呼ぶ相手が増えた。

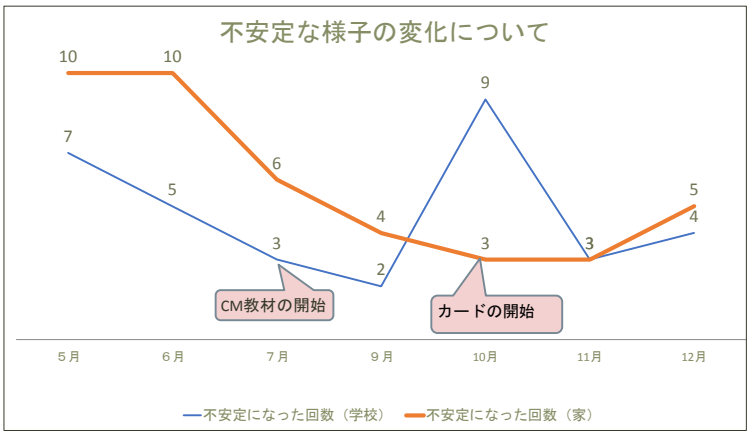




・CMを聴いて待つことが増えた。
・他の教員を呼ぶことが増えた。

呼んだ教員が来られなかった時の様子

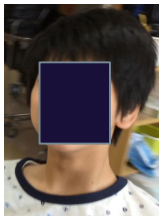
周りの様子を確認し、手が空いている教員を呼ぶことができようになった。



学校や家庭で、iPadや写真カードを使うことにより、自分の思いが伝わったという実感を持ち、その結果不安定になった回数が減ってきたと考えられる。

Aさんの気持ち

お家でもカードを使って、お母さんにやりたいことを伝えられるようになったぞ！



カードを使ってやりたいことをすぐに伝えられるようになったぞ！

iPadを使って、遊びたい先生を呼べたり、行きたい場所を伝えられてうれしい！

お家での楽しみが増えたぞ！

先生が忙しいときは、CMソングを聴いたり、他の先生を呼んだりしよう！

保護者の気持ち

家庭での余暇が増えてよかったです。

この活動を通じて、本人がやりたいことを伝えられるようになってうれしいです。

家でもカードを使うことで、Aのやりたいことが分かるようになりました。

一人で落ち着いて過ごしていてすごい！

家でも落ち着いてきました。

自分の気持ちが通じて時の表情がとてもいいですね。

今後の見通しについて

〇口頭やサインなどでも伝えられることを増やし、場面や状況によって手段を使い分けられる力を伸ばしていく。

〇家、学校、外出先など場所がかわっても、本人が必要とするコミュニケーション手段を提供できるようにご家庭と連携して取り組んでいく。

〇自分の感情も伝えられるように学習を積み重ねていく。

ご静聴ありがとうございました。